人間社会デザインコース・希望の経済学

「知識の修得」から「専門的職業人としての使命感の形成」への波及

社会科教育講座・松野尾　裕

１．授業の概要

授業科目：希望の経済学（後学期・金曜日・2限）
授業題目：経済の発展と人間の発展。キーワード：生活の質、人間開発/発展、自由としての経済発展、社会的企業、貧困のない社会。
教職資格にかかわる事項：中一種免（社会）「社会学、経済学」・高一種免（公民）「社会学、経済学（国際経済を含む。）」の選択科目。
授業の目的：２１世紀の社会を真に人間の思いやりに満ちた社会とするために、経済活動はいかにあるべきか。そのビジョンを描き実現の可能性を追究するための基礎的力を身につける。
授業の到達目標：(1)人間が生きるにふさわしい経済社会の創造を模索する思考を身に付けている。(2)幾つかの著作を手がかりにして新しい経済社会を構想する短いエッセーを論述することができる。(3)社会的企業やＮＰＯ等の新しい経済社会をつくる具体的な運動に関心を持つことができる。
ディプロマ・ポリシー：共生社会を築くため，地域・福祉・平和に関する幅広い知識と，得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）
授業概要：人間が生きるにふさわしい経済社会を創造しようとする実践的・理論的試みを幾つかの事例に則して追究する。扱う事例は下記の授業スケジュールを参照。

第１回　はじめに
第２回　問題の提示－人間の経済
第３回　A.T.アリヤラトネの実践－サルボダヤ・シュラマダーナ（１）
第４回　A.T.アリヤラトネの実践－サルボダヤ・シュラマダーナ（２）
第５回　A.T.アリヤラトネの実践－サルボダヤ・シュラマダーナ（３）
第６回　M.ユヌスの実践－グラミン・バンク（１）
第７回　M.ユヌスの実践－グラミン・バンク（２）
第８回　M.ユヌスの実践－グラミン・バンク（３）
第９回　賀川豊彦の実践－生活協同組合（１）
第１０回　賀川豊彦の実践－生活協同組合（２）
第１１回　賀川豊彦の実践－生活協同組合（３）
第１２回　A.センの経済学（１）
第１３回　A.センの経済学（２）
第１４回　A.センの経済学（３）
第１５回　むすび

授業の方法：受講者によるテキスト内容の発表と、教員の主導による討論・考察、関係文献の紹介等を交互に繰り返し、最終回では学習課題を展望し、最終レポートの提出を求める。
授業時間外の課題：授業中に指示された参考文献等を利用して、理解の不十分な箇所を調べる等の復習を行うと共に予習を行う。
成績評価：授業中の発表・討論内容と期末のレポートの内容に基づく。評価の基準は、まずテキストの内容を理解し適切な発表ができているか、及び授業内の討論を理解しているか(50 点)、次いでその理解した内容を各自の考察へと発展させているか(50 点)、である(計 100 点)。

受講者数：１０人
人間社会デザインコース２回生　８人
人間社会デザインコース３回生　１人
スポーツ指導者養成コース４回生　１人

授業の進捗状況及び期末レポートの課題：授業はほぼ当初の授業スケジュール通りに進行した。期末のレポートでは、提出期限まで２週間をとり、授業の内容を十分に振り返ったうえで、各自の問題関心に即して論点を絞りＡ４用紙１～２枚程度にまとめるよう指示した。

２．授業評価法

教育学部が作成した「ディプロマ・ポリシーによる授業評価」のアンケートを用いた。

教育学部ＤＰ

1 教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）
　1A 教育に関する知識の修得
　1B 得意分野の専門的知識の修得
2. 教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。（思考・判断）
　2A 教育をめぐる現代的諸課題の理解
　2B それへの適切な対応策のあり方についての思考力・判断力の修得
3. 教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。（表現・技能）
　3A 教育活動に必要な高い技能の修得

3B 教育活動に必要な豊かな表現力の修得

4. 自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。(関心・意欲)

4A 自己の学習課題の明確化

4B 理論と実践を結びつけた主体的な学習への意欲の喚起

5. 専門的職業人としての使命感や責任感と多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。(態度)

5A 専門的職業人としての使命感や責任感の形成

5B 多世代にわたる対人関係力の育成

質問

この授業はＤＰにいかに貢献したと思いますか。４段階で評価し、該当する○を鉛筆で塗りつぶしてください。

１十分貢献した、２貢献した、３あまり貢献しなかった、４授業の目標・内容がこのＤＰとは無関係であった

３．授業評価結果

受講者１０人のうち１０人全員が回答した。

人間社会デザインコース２回生 ８人

	1	2	3	4
ＤＰ1A	3	5	0	0
ＤＰ1B	2	6	0	0
ＤＰ2A	3	4	1	0
ＤＰ2B	2	5	1	0
ＤＰ3A	2	6	0	0
ＤＰ3B	2	6	0	0
ＤＰ4A	3	5	0	0
ＤＰ4B	3	4	1	0
ＤＰ5A	3	5	0	0
ＤＰ5B	3	5	0	0
計	26	51	3	0

人間社会デザインコース３回生 １人

	1	2	3	4
ＤＰ1A	1	0	0	0
ＤＰ1B	1	0	0	0
ＤＰ2A	0	1	0	0
ＤＰ2B	0	1	0	0
ＤＰ3A	0	1	0	0
ＤＰ3B	0	1	0	0
ＤＰ4A	0	1	0	0
ＤＰ4B	1	0	0	0
ＤＰ5A	1	0	0	0
ＤＰ5B	1	0	0	0
計	5	5	0	0

スポーツ指導者養成コース４回生 １人

	1	2	3	4
ＤＰ1A	1	0	0	0
ＤＰ1B	0	1	0	0
ＤＰ2A	0	1	0	0
ＤＰ2B	1	0	0	0
ＤＰ3A	0	1	0	0
ＤＰ3B	0	1	0	0
ＤＰ4A	1	0	0	0
ＤＰ4B	0	1	0	0
ＤＰ5A	1	0	0	0
ＤＰ5B	0	1	0	0
計	4	6	0	0

４．考察

回答者は人間社会デザインコース２回生が８人、同３回生が１人、スポーツ指導者養成コースが１人、計１０人であった（回答率 100%)。

本授業の中心的なＤＰは、人間社会デザインコースのＤＰである「共生社会を築くため，地域・福祉・平和に関する幅広い知識と，得意とする分野の専門的知識を修得している。(知識・理解)」であり、本授業評価アンケートではＤＰ１Ａ及び１Ｂに当たる。これについての回答をみると、ＤＰ１Ａについては「十分貢献した」が５人、「貢献した」が５人、ＤＰ１Ｂについては「十分貢献した」が３人、「貢献した」が７人である。授業のねらいはおおむね達成されたといえる。

ＤＰ２Ａ、２Ｂ及び４Ｂに関して、「あまり貢献しなかった」と回答した者は同一人物である。思考・判断、関心・意欲の点で、学生への働きかけが弱かったのかもしれない。本アンケートには自由記述欄が設けられていないので、具体的なことは不明であるが、気になるところである。

ＤＰ５Ａで「十分貢献した」と「貢献した」が各５人、ＤＰ５Ｂで「十分貢献した」が４人、「貢献した」が６人であり、ＤＰ５について比較的高い評価を得た。本授業が専門的な知識の修得だけでなく、専門的職業人としての使命感や責任感の形成に役立ったと評価してくれたのはうれしいことである。授業の到達目標の「(3)社会的企業やＮＰＯ等の新しい経済社会をつくる具体的な運動に関心を持つことができる」に近づくことができたといえるだろう。